

検査部 通信

凝固検査検体の 採血量について －検体検査室－

企画：
中央臨床検査部

NO.2



不適切な採血量は検査結果に影響します
採血管の目安線まで採血をお願いします

検体検査室では、提出された検体を迅速かつ正確な結果を臨床側に報告できるよう心がけています。その中で凝固検査についての採血量は規定量入れていただく必要があります。今回、採血量の重要性についてご説明します。

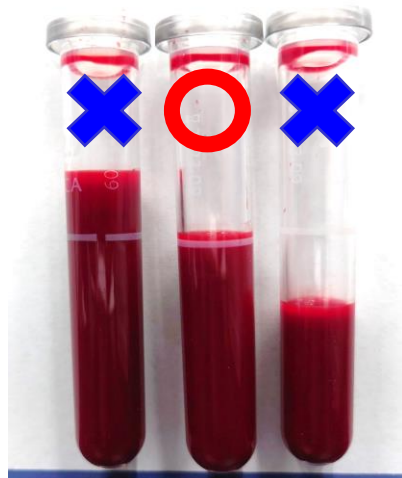


写真1.不適切な採血管

表1.採血量による項目への影響

	採血量 多い	規定量	採血量 少ない
APTT	22秒	31秒	45秒

採血量の過不足は値に影響

不適切な採血量の事例を左の写真1に示します。

左から採血量が過多、規定量、不足であった採血管になります。

採血量が規定量より過不足した場合、測定項目にどう影響するのでしょうか。採血量の過不足により、凝固項目に影響を及ぼすことが報告されています（表1）。凝固の採血管には、液体の抗凝固剤が添加されているため、採血量を厳守する必要があります。

検査室では、採血量はその都度確認しておりますが、採血の際には、採血量が適量かどうかを確認のうえ検体を提出いただきますようご協力をお願いします。

採血管には目安線があります

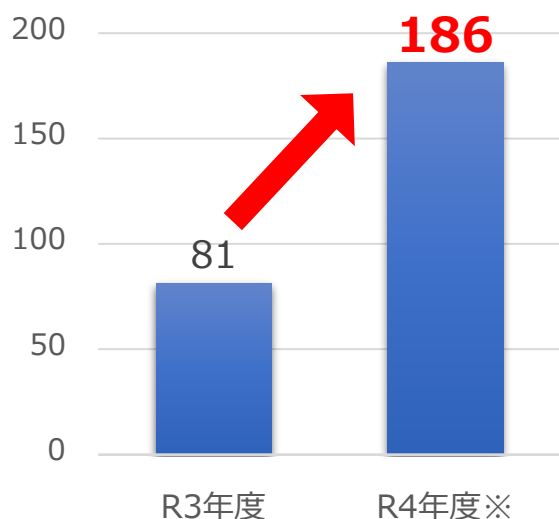


写真2.凝固検査用採血管・マイクロティナー(小児用)

院内で採用されている採血管は左の写真2に示す2種類です。採血管には、採血量の目安となる**目安線**が付けられています。

規定量の採血がなされず再採血をお願いした件数

再採血依頼件数



グラフ1.再採血依頼件数
※R4年度は2022.04-2023.02

昨年度（R3年度）規定量の採血がされず、再採血をお願いした件数が**81**件でしたが、今年度（R4年度）は2月末時点で昨年の**2倍以上**の、**186**件を推移しています。採血が困難な場合もあると思いますが、できる限り**目安線**までの採血をお願い致します。



翼状針を用いての採血には注意

翼状針は、チューブが付いているため、チューブ内のデッドスペース分だけ採血量が**不足**します。「標準採血法ガイドライン」によると、規定量の採血が求められる採血管がある場合、チューブ内を血液で満たすために、①複数の試験管がある場合は2本目以降に採血するか、②1本のみ採血する場合は先にダミー採血管を用いる、としています。再採血を依頼された場合にも注意が必要です。



写真3:翼状針

チューブ内の
デッドスペース分



問い合わせ先：検体検査室 3301番